

「デザイン×印染」でB to Cにトライ、
Webサイトで海外販売へ

スギシタ 有限会社

代表取締役 杉下 永次さん



杉下 永次さん

平成25年度 採択事業

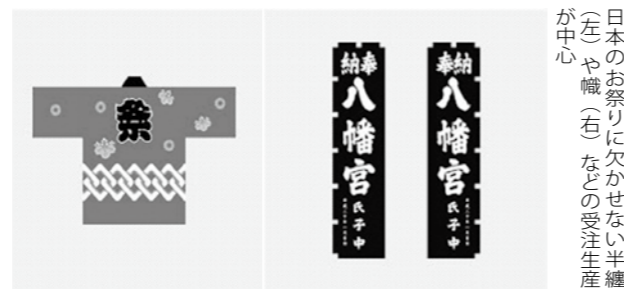
父から受け継ぎ兄弟で支える^{しるしぞめ} 印染

スギシタ有限会社は、昭和11(1936)年に創業した染色業を営む会社です。現在は、三代目の杉下永次さんが代表となり、2人の弟と一緒に家族丸となって印染の継承に取り組んでいます。印染とは、^{はんてん}半纏、^{のぼり}幟、^{のれん}暖簾、風呂敷、旗、幕など日本の伝統的なシーンに欠かせない染物の技術。原色に近いきれいな色を使い、家紋や名称などをより目立たせる技法が特徴です。問屋からの受注生産が中心ですが、近年は、自社ブランドを立ち上げるなどして、Tシャツやバッグなど、時代に合わせた洋装等の分野でも商品化を試みてきました。今回の応



1つ、糊置き工程の

援ファンドでは、受注生産だけでなく、お客様の反応が直接聞ける商品開発などの事業スタイルを広げるため、まずは、自社ブランド「京都染職人衆・絆」のレディース展開と、海外販路拡大のための英語版WEBページの製作を試みました。



日本のお祭りに欠かせない半纏(左)や幟(右)などの受注生産が中心

「デザイン×印染」で新しい展開へ

自社ブランドの「京都染職人衆・絆」は、伝統産業である印染を現代のライフスタイルに取り入れ、日常生活でも慣れ親しんで頂けるよう、印染職人の技を集結させて立ち上げた京都のブランドです。立ち上げにあたっては、近年日本の伝統的な染物の受注量が減少してきたことに打撃を受け、新しい販売チャンネルを広げることで売り上げを確保できないか、と必死だったそうです。また、問屋を介した受注生産では、直接お客様の声をお聞きすることが出来ず、若い職人がモチベーションを持って厳しい職人修行に向かうためには、マーケットと直接つながる生産体制が必要ではないか、とも考えました。現代のライフスタイルに合った印染とは何かを、新しい商品の開発などを通して模索していたところ、平成24(2012)年に(株)リクルートと共同で製作した東日本大震

伝統製品の活用

災チャリティー事業のトートバッグが大反響を呼びました。この時、180人のクリエイターとコラボして作ったトートバッグが、当初予想の4倍の4000個も売れたそうです。この事業を通してデザイナーの方から印染への技術的な評価を頂け、また、デザイナーの方々を介して新しいニーズに柔軟に合わせた印染を届けることができ、アパレルや雑貨などのカジュアルな分野に印染を展開することへの確信を持つことが出来たそうです。

自社製品としては、これまで、Tシャツに加え男性用バッグやハンチング帽など少しずつアイテムを増やしてきましたが、女性用のバッグやハットも試作。また、海外へ販路を広げるため、英語版WEBページの製作にも取り組みました。英語版WEBページをきっかけに、英国老舗百貨店から日本の食文化に絡めた風呂敷の問い合わせを頂戴するなど、本物志向の強い海外からの評価にも少しずつつなげていきたいと考えています。



「京都染職人衆・絆」の英語版WEBページ

一方、今回支援ファンドの申請をきっかけに改めて会社の方向性を見直し、「デザイン×印染」の企画書を作って各方面のデザイン事務所を訪れるなど、地道に広報を重ねていったと言います。杉下さんは、これが自社も含め世間への宣言になり、新しい出会いや展開へつながっていったのではないかと振り返ります。デザイナーや大手企業、アパレルメーカーなどからも直接問い合わせを頂くようになり、その都度ニーズに応じた商品を提案し、そのために求められる技術力をひとつずつクリアし、それらが評価されてまた次の取引につながっていく…。自らが出向くことで、ものづくりの好循環を目の当たりにした杉下さんは、B to BではなくB to Cで商品開発をするということは、言葉だけでは表しきれないお客様の深いニーズを読み取る力が鍵である、ということに気付いたそうです。「まるでお客様のお医者さんになって問診しているよう」と杉下さん。職人技として物の評価を頂いてきた受注生産とはまた違い、お客様とごまかしのないやり取りをしながら、依頼された物以上の物を作りあげる過程そのものが楽しい、ということにも気づいて

いったそうです。

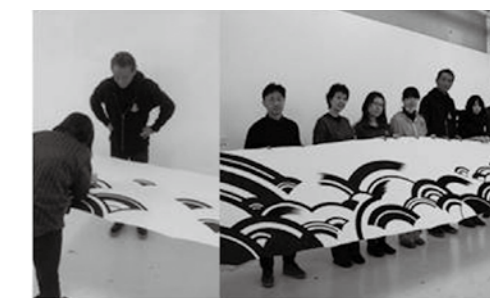


ローソンとのコラボ商品(左)や東郷記念館(婚礼会社)とのコラボ商品(右)

若手に期待を込めて

杉下さんは、職人技の継承や次世代に合ったものづくりのため、若手にも期待しています。そんな中出会ったのは一人の女子学生。平成26(2014)年の祇園祭で150年ぶりに復活した大船鉾の裾幕を手掛けた京都市立芸術大学の学生です。その際、大学の紹介で手染め指導を行ったのがきっかけとなり、学生から働かせてほしい、と杉下さんを訪れてきたそうです。これからは、職人技の継承だけでなく企画力やコミュニケーション能力が必要になるだろうと、若者のニーズや女性特有の感性にも期待し、アルバイト雇用することに。経験を積んで正規雇用にもつながれば、と見守っています。

支援ファンドをきっかけに大きくチャンネルを広げた杉下さんは、もう一度実績を振り返って集約していくことも必要だと言います。お客様の「ありがとう」の一言で、ぐっとモチベーションが上がる新しいものづくりの世界を経験した杉下さんは、奢ることなく地に足をつけ、家族や職人、若手とも支え合いながら、印染の技術を着実に未来へ継承していこうとしているのです。



大船鉾裾幕を手掛ける学生を指導

事業概要

スギシタ 有限会社

http://www.kyoto-some.com/

代表：代表取締役 杉下 永次

業種：染色整理業

創業：昭和11(1936)年 設立：平成9(1997)年

住所：〒600-8390 京都市下京区猪熊通四条下る松本町269番地

TEL：075-841-4449 FAX：075-822-1588